

こけしを観光客にPR

工人たちがこけしを清掃

4月18日、市内のこけし工人たちが、いきいきプラザ前にある桜橋の欄干上のこけし像を清掃しました。この活動は、全日本こけしコンクールを前に、訪れた観光客をきれいなこけしでお出迎えしようと平成24年に復活。桜橋のほか、白石第一高架橋や弥治郎橋の橋梁上部に設置しているこけし像計12基の汚れを拭き取ってきれいになりました。作業に参加した工人は「こけしは白石の伝統文化。市民の皆さんだけでなく、観光客の皆さんにもこけしの良さを知ってほしい」と熱い思いを話してくれました。



▲心を込めてこけしを清掃する工人たち

広げよう 地域に根ざした 思いやり

「民生委員・児童委員」一斉活動

全国民生委員児童委員連合会が5月12日を「民生委員・児童委員の日」と定めていることに合わせて、5月12日、市内の民生委員・児童委員約90人が、高齢者宅などを対象とした一斉訪問活動の出発式をすまいるひろばで行いました。この出発式で、民生委員児童委員協議会の日下雅嗣会長は「民生委員・児童委員は市民のプライバシーを守りながら地域福祉活動により一層の協力をお願いします」とあいさつ。風間市長は「困っている地域の人を見かけたら、優しく声をかけてあげてください」と、地域のつながりの大切さを話していました。



▲出発式で、民生委員・児童委員の信条を唱和する委員の皆さん

着物姿で町歩き

春です！ さくら～きものまつり

4月18日～20日の3日間、「春です！ さくら～きものまつり」（白石まちづくり株式会社主催）が壽丸屋敷で開催されました。壽丸屋敷では着物の着付けを行ったほか、着物リメイク作品や古布を使って制作した戦国武将の人形などの作品を展示。奥書院座敷と店蔵では、アンティーク着物や手作り小物販売の「お座敷店蔵きもの市」が行われました。来場者には、コーヒーを無料サービス。訪れた人たちは「会場の雰囲気が良く、手作りの作品もすばらしい」と語り、着物姿でのコミュニケーションを楽しんでいました。



▲古布を利用した人形などの作品を鑑賞する来場者たち

段差もらくらく

トヨタ自動車東日本が電動車いすを寄贈

4月16日、トヨタ自動車東日本株式会社の吉田實常務執行役員が白石城を訪れ、4WD電動車いすを風間市長に手渡しました。この電動車いすは同社が開発したもので、四輪駆動による走破性の高さが特徴。吉田常務は「宮城には白石城のような素晴らしい観光地がたくさんあります。体の不自由な方や高齢者の方に利用していただき、宮城の観光を楽しんでもらいたい」とあいさつ。風間市長は「段差の多い白石城にぴったり。車いすの方にも、しっかりとのおもてなしが出来るよう、白石城に備え付け活用させていただきます」とお礼を述べました。



▲風間市長に電動車いすを寄贈する吉田常務（右）

心を込めておもてなし

第10回手づくりの市

5月10日、11日の両日、趣味グループや個人が手づくりした作品を展示・販売する「第10回手づくりの市」（同実行委員会主催。谷津裕子委員長）が壽丸屋敷で開催されました。「まちなかににぎわいを」と平成18年から始まったこの催しも今回で10回目。来場者は「アクセサリなどのかわいい作品だけではなく、竹細工や盆栽などもあり、見ているだけで楽しい。作品を作った方とお話できるのも魅力」と笑顔で話してくれました。今年は12のグループ・個人が出展し、2日間で約1,000人が来場。売上金の一部は実行委員長から市に寄付されました。



▲今回初出展の竹細工作品の魅力に見入る来場者たち

南蔵王の雄大な自然でリフレッシュ！

しろいし健康ウォーク

4月19日、「しろいし健康ウォーク」を水芭蕉の森と南蔵王野営場で開催し、約40人が南蔵王の春をウォーキングとともに楽しみました。参加者は、水芭蕉やカタクリなどの春の草花を見ながら、約3kmの散策路を思い思いのペースでウォーキング。ウォーキング中、南蔵王野営場の佐々木知明場長からコース内の見所や動植物の説明を受けるなど、南蔵王の自然を満喫しました。参加者は「南蔵王の草花や野生動物の生態などの説明を受けながら楽しんで歩くことができました。山菜や紅葉の時期にも来てみたいですね」と話していました。



▲南蔵王の自然を満喫しながらウォーキングする参加者の皆さん

ふるさとを大切にする心を育む

スパッシュランドパーク清掃活動

4月16日、小原小・中学校の児童・生徒がスパッシュランドパーク清掃活動を行いました。この活動は、児童・生徒たちの、自然やふるさとを大切にする心を育もうと毎年実施。この日は、小原小の児童21人と小原中の生徒13人など約60人が参加し、9つのグループに分かれて、パーク内や周辺道路などのごみを拾い集めました。小原温泉旅館組合の四竈均組合長は「皆さんのふるさとである小原が、さらに魅力あふれる地域となるように頑張りましょう」とあいさつ。参加した児童は「きれいになって気持ちがいい」と笑顔で話してくれました。



▲真剣にごみを拾い集める児童・生徒たち

友好の架け橋

台湾新竹市からお礼の手紙

4月23日、新竹白石親交会の佐藤善一会長が株式会社松田製粉を訪れ松田圭代表取締役社長に、台湾新竹市の陳家倫さんから預かった手紙を手渡しました。

陳さんは昨年10月に当市を旅行で訪れた際、自転車で転倒し傷を負ってしまい、近くにあった松田製粉の事務所に助けを求めました。手紙には、同社の社員が手当てをした事に対してのお礼がつけられており、松田社長は「当たり前のことをしていただけですが、とてもうれしい」と語り、佐藤会長は「これが白石市と新竹市との友好の架け橋となれば」と話しました。



▲佐藤会長（右）から手紙を受け取る松田社長（左）